

日本における圓佛教の布教活動の現況

—大阪教堂の事例を中心に—

李和珍

はじめに

圓佛教は 1916 年 4 月 28 日に韓国で創立された仏教系の新宗教である。開祖は少太山（ソテサン 朴重彬、1891～1943）であるが、教団においては、現在「大宗師」と呼ばれている¹⁾。圓佛教では、開教年からの年数を「圓紀」としていて、2016 年 5 月 1 日には圓紀 100 年を迎えた。圓佛教の信仰の対象は「イルウォンサン一圓相」で「法身佛一圓相」ともいい、「○」で象徴される（下の写真参照）。各教堂にはこの一圓相のシンボルがあるが、少太山が宇宙の真理を悟った後、その象徴として表現したものとされている。少太山の教えをもとに教理をまとめた基本経典が『圓佛教教典』である。



圓佛教の仏壇。真ん中の「○」が「一圓相」

組織は監察院と教政院の 2 つの院があり、これに立法機関として中央教議会が加わって三権分立体制となっている。中央総部を中心として韓国内には、16 教区と 500 以上の教堂、また 5 ヶ所の聖地があり、教育・福祉・文化関連事業

の施設と機関を含むと 200 以上ある。韓国外には 5 教区と 20 ケ国に 80 以上の教堂がある。

聖職者は「教務」（「専務教徒」ともいう）と称されるが、教務は定期教育課程を経て、教役者資格試験に合格した者で、出家教役者の名称である。一般信者は「教徒」（「在家教徒」ともいう）といい、入教すると法名と入教式を行う。教徒は、「教堂」で教理や儀式を行い、「心の勉強」を通して信仰生活を続ける。韓国の統計庁で 10 年毎に実施する「国民住宅総調査」によると、教徒数は、2005 年に 12 万 9,907 名で、2015 年には 8 万 4 千名である。21 世紀になって減少気味である。

少太山大宗師の死後、圓佛教の教えを継承し、教団の代表を務める役割をになう「宗法師」は、現在までに次の 5 人がいる。任期は 6 年であるが、再任もある。上師は宗法師を歴任し、現職から退位した人を指す。宗師は、歴代宗法師を歴任した人と法階出家位以上の人を指す法勲。

- (1) 鼎山上師（チョンサン 宋奎 1900～1962）、在位 1943 年 6 月 8 日～1962 年 1 月 24 日、
2～4 代
- (2) 大山上師（テサン 金大舉 キム テ ゴ 1914～1998）、在位 1962 年 1 月 31 日～1994 年 11 月 6 日、5～10 代
- (3) 左山上師（ザサン 李廣淨 イ クァンチュン 1936～）、在位 1994 年 11 月 6 日～2006 年 11 月 5 日、
11～12 代
- (4) 耕山上師（キョンサン 張應哲 チャンウンチョル 1940～）、在位 2006 年 11 月 5 日～2018 年 11 月 3 日、
13～14 代
- (5) 田山宗法師（チョンサン 金主圓 キムジュウォン、1948～）在位 2018 年 11 月 3 日～、15 代

6 年の任期を 2 期務めた耕山宗法師の後任が、2018 年 9 月 18 日に選挙により靈山禪学大学の総長を務めている金主圓宗師に決定した（<http://www.won.or.kr/posts/detail/34362>）。新宗法師の移・就任式は 11 月 4 日に中央総部靈殿広場で行われた。

このような組織のもとに韓国内で活動を展開し、現在は国外にも支部をもつ圓佛教であるが、本稿では、圓佛教にとっては初めての海外布教地と位置づけられる日本での活動について、教徒がもっとも多く存在し、活動も活発である大阪教堂の展開、活動の具体的内容などを中心に述べる。

1. 最初の海外布教地である大阪

1916年に開教した圓佛教の当時の名は「佛法研究会」であったが、当時は日本の植民地時代であり、教団としての活動や基盤づくりは容易ではなかった。少太山大宗師の死後まもなく日本統治が終わり、圓佛教の教えを継承した鼎山宗師が1947年に正式教団名「圓佛教」と定め、本格的な活動を始めた。

圓佛教はすでに第二次大戦前の1930年代に海外布教を始めている。1935年に大阪に初代の朴大完パクテワン教務が派遣されるが、日本での活動に対し弾圧などがあり、朴教務は1年で韓国に帰国する。その後しばらく間があって、1966年に再び教化活動のために教務が派遣された。75年には日本語版教典が刊行されており、70年代までは日本での布教（圓佛教では「教化」と称する）のための準備期と言える。1982年に第2代の張鳳雲チャンボンウン教務が赴任し、日本での教化の基盤づくりを始める。1980年～90年代には圓佛教の支部が宗教法人として次々と認証され、以下の4つの宗教法人ができた。

- ・1980年に岡山県で「圓佛教」認証（岡山法人）
- ・1987年に横浜教堂が設立され、1993年に「宗教法人円仏教」が認証（神奈川法人）
- ・1991年に圓佛教千葉教堂が認証（千葉法人）
- ・1997年には大阪教堂が圓佛教大阪教堂として認証（大阪法人）

その後、2000年代にいくつかの動きが起こる。2006年には東京都葛飾区金町に日本教区・東京教堂（「圓佛教東京教堂韓国文化センター」の看板）が設立され、横浜教堂を含む関東での教化活動の基盤となることが目指された。しかしながら、この試みが十分機能しているとは言えない状況である。また2018年9月21日に、岡山法人が「誓願院」に合併吸収されることによって消滅した。横浜教堂は教徒が少数にとどまったままであり、2018年10月現在で3つの法人が存在する状況だが、いくぶん流動的な事態になっている。

こうした展開の中で大阪教堂はきわめて重要な役割をはたしてきた。日本教区の教堂の中で最初に設立された教堂であり、現在ももっとも積極的な活動を続けている。大阪教堂の主な沿革をまとめると以下の通りである²⁾。

- 1935年 朴大完教務を派遣
- 1936年 朴教務が帰国、教化が中断
- 1966年 教化を再開するが、目立つ活動は見受けられない
- 1982年 張鳳雲教務が赴任（18年間在任）
- 1989年 教堂設立（建坪 13 坪の 3 階建物、大阪市生野区）
- 1990年 大阪教堂奉仏式
- 1997年 大阪教堂が宗教法人として認証
- 1999年 キムボブソフ 金法照教務が赴任、現在に至る
- 2016年 教堂移転とともに移安奉仏式（建坪 50 坪、2 階建物、大阪市生野区）



1989年購入の建物



現在の建物

2. 大阪教堂の布教活動

圓佛教の最初の海外布教地は大阪であり、その意味で世界のどこよりも布教活動の歴史は長いと言える。けれども、それより歴史が短い米国での教化活動と比べると、信者の規模などははるかに小さい。米国への教化活動は 1960 年代から始まったのだが、現在は 20 以上の教堂を含め、教育機関（米州禅学大

学院大学校、米州禅学大学院大学校育英財団）、訓練院（圓ダルマセンター訓練院、ハワイ国際訓練院、米州西部訓練院）、医療機関（米州圓光医療院、米州総部法人院普和堂、ワシントン普和堂漢医院、シルバースプリング普和堂漢医院）、福祉関連機関（ニューヨーク圓光福祉館、フィラデルフィア米州福祉館）などがある。宗教活動だけでなく、教育・医療など幅広い活動へと展開をしていることが分かる³⁾。

米国では座禅を中心とした活動によって、一定程度の信者を得ることができたが、日本では禅宗として曹洞宗と臨済宗が広くいきわたっており、さらに仏教系新宗教も数多く活動している。それゆえ圓佛教の思想や教理に関心を向ける余地があまりなかった可能性がある。その意味では、米国に比べて布教の条件が非常に厳しかったとも考えられるが、そうした中に大阪教堂はどのような教化活動によって今日に至ったのであろうか。

大阪教堂への参与観察調査は2012年と2016年に2度行った。その調査の折に収集した資料や写真などをもとに、これまでの沿革や主な布教活動をまとめてみる。参照した資料は大阪教堂の教務が作成した沿革（1989～2015年）であり、これには「行政」「訪問」「儀式」「教化」「文化」「人事」などの表題に詳細内容が記されていて、毎年の活動の様子がかなり詳しく読み取れる。

張教務が1982年に赴任すると、1989年に13坪3階建ての教堂建物を購入することとなり、90年には奉仏式が行われた。その当時の教堂への教団関係者の訪問の様子を見ると、年中行事と毎月2回の法会には、教徒10～20名が参加していたことが分かる。ただそれ以外に目立つ活動の記述は見受けられない。1999年（圓紀84年）1月1日に金法照教務が副教務として赴任してから、新たな活動が計画されて、以前より活動の内容は多様になったことが見てとれる。教化活動について分析してみると、教団の通常の年中行事や儀式を除いて、次のような4つの活動がなされたことが特徴的である。

(1) 韓方無料診療

1つ目は、2001年から毎年実施された韓方無料診療活動である。これは韓国の医療活動であるが、かなり多くの人を集めており、毎年200名から400名近くの人がやってくる。この診療活動には圓光大学校韓医科大学などの

支援があり、また宗教法人人民衆仏教観音寺が場所を提供した。健康相談と診療、針、灸などが行われた。この活動はコリアタウンと生野区を中心に広報されて10年間実施された。これにより、生野区での圓佛教の認知度が上がったと考えられる⁴⁾。

2018年6月1～3日に、期間限定の韓方無料診療が大阪で行われた。これは済州島の韓医師会（済州で開院した韓医師ら）の主催によるもので、在日済州島民のための医療奉仕活動である。済州4.3事件が70周年を迎えたことを契機に、大阪の鶴橋近郊に住む済州の高齢者を対象に行われた。済州4.3事件とは、済州島で1948年に起こり、54年まで続いた民間人と警察との衝突事件であり、多くの民間人が犠牲になった。済州島の出身者が大阪の鶴橋に多く住んでいることが関係して開催されたものである。これには2001年から10年間にわたって行われた圓佛教の韓方無料診療活動が参考にされた。民団東成支部、八尾支部、圓佛教大阪教堂、老人ホーム、週間保護センターなどで診療が行われ、120名が診療を受けた。2018年の無料診療には済州島庁と済州MBC放送局の関係者も同行しており、この様子取材したテレビは韓国で放映されたが、そこにおいて圓佛教大阪教堂と金教務が紹介された。

(2) ハングル教室と日本語教室

2つ目は、日本にいる在日同胞や日本人を対象に毎週月曜日にハングル教室を開講し、また韓国から日本に留学に来た学生のための日本語教室を毎週土曜日に開講したことである。これは2001年3月から始まり2008年まで続いた。このハングル・日本語教室は徐々に子どもの日本語と漢字勉強会となり、参加人数も少なかったが、教育を通して若い世代にも圓佛教を認識してもらい、教堂に通うことに違和感をなくしていく目的があったと考えられる。

(3) 韓国文化紹介

3つ目は、2002年から始まったもので、韓国文化を紹介する活動である。韓国では旧暦で過ごすお正月（ソルナル）やお盆（チュソク）という伝統的習俗があるが、大阪教堂ではこうした行事の際に日本人を招待し、料理を振る舞ったり伝統遊びを紹介して一緒に楽しんだりしている。また、日本人教徒を中心に

に韓国の伝統衣装であるチマチョゴリの試着、韓国家庭料理やキムチ作りをするなどして、韓国文化の体験教室も開いている。

2003年からは近所の小学校や中学校（主に朝鮮学校が対象）で、韓国の民俗遊びを紹介して一緒に楽しんだり、のり巻やトッポギ、キムチなどの韓国料理を提供した。また、大阪城公園におけるハナ・マトゥリ、あるいはワンコリアフェスティバルのような地元の行事にも積極的に参加し、韓国民俗遊びなどを紹介するなどして、圓佛教を広報する機会を増やした。2014年からは老人福祉施設である「ハーモニー共和」を訪問した。そこで韓国料理を提供したり、一緒に餅つくりをしたり、チマチョゴリ試着や韓国のすごろくであるユンノリゲームを紹介、楽しむという活動を毎年続けている。



韓国の伝統衣装であるチマチョゴリの試着

(4) ツアー

4つ目は、「テーマ旅行」と題されるもので、韓国各地の訪問はむろん、圓佛教の中央総部、訓練院と聖地を巡礼するツアーの実施である。2000年から4年間続き、日本人と在日同胞を含め毎回20名近くの参加者があったとされる。再開されるのが2013年であるが、その間テーマ旅行が中断されているが、これは韓方無料診療の行事に重点を置いたからではないかと推測される。

以上のような活動を続けると同時に、節目となる圓紀100年を迎えた2015年には13坪の狭い教堂から新しい教堂探しを始められた。同年12月には新教

堂の建物を購入し登記まで終え、2016年10月4日に大阪教堂の移安奉仏式が開かれた。大阪教堂の移転と移安奉仏式は、韓国教団内で大きく報じられ、金教務の18年間にわたる教化活動と祈禱、韓国からの支援、大阪教堂の教徒からの喜捨によって実現できたと評価している⁵⁾。また大阪教堂の今後の発展計画は、文化教化（韓国伝統文化紹介）を通して小さな文化院としての役割、日韓文化交流やテーマ旅行を通して日本人教徒の増加を目指す。なお、長期的には高齢化社会に合わせて、積極的に教堂施設を提供して高齢者を対象にしたサービスを増やし、福祉施設（ハーモニー共和）を訪問して韓国文化を紹介、圓佛教をより広く認識してもらうようにする。教堂の活用法としては、留学生の下宿先と文化院運営なども視野に入れている。

大阪教堂の移安奉仏式には、200名以上の参列者が訪れた。教団の幹部、日本教区長以外に金教務の同期教務ら10名以上が訪れた。同期教務たちは数曲にわたる祝歌^{チュッカ}を合唱し、金教務の18年間の教化活動の苦労をねぎらった。参与観察等から得られた限りでは、こうした場面は日本の他地域の奉仏式では見られないものであった。また、長年大阪教堂に通っていたが、数年前東京に移住したという教徒の聞き取り調査に基づけば、大阪教堂が長い間教化活動を続け、教徒たちにとっての集まりの場として一定の機能を果たしてきているのは、金教務の活動のあり方が大きく関係していると考えられる。すなわち、金教務が法会も誠実に実施し、外部への働きかけも積極的であり、在日同胞や留学生などの教徒たちが通いたくなる雰囲気があるということであった。

むすび

圓佛教が日本の大阪に布教を始めてから20世紀末までは、活発な布教活動を行ってきたとは言えない。しかし、21世紀に入ってからの持続的な活動を通して目立つような信者の増加は見られないものの、少数ながらも日本人の教徒が生まれるようになり、大阪教堂の存在を周辺に認識してもらうための活動は積極的になされてきたと言える。

その布教活動のポイントとして、次の3点が挙げられる。

①韓国の関連機関や日本現地の団体などの協力によって韓方無料診療が10年間も続いたということが圓佛教の広報につながったこと。

②在日同胞が多いコリアンタウンという利点から多くの在日同胞との出会いと親しみやすい場所の提供ができたこと。

③韓国文化の紹介・異文化体験ができる機会を定期的に継続的に作った金教務と教徒らの努力によって日本人にも関心を寄せてもらう、また若年層と高齢者にも認知してもらえるようにしたこと。

冒頭に述べたように仏教系の新しい教団としての圓佛教にとって、日本の宗教環境は、布教面ではかなり厳しい条件にさらされている。首都圏における活動の現状を見ても、置かれている環境の厳しさはよく見てとれる。けれども、教務の活動しだいでは、少なくとも韓国人・在日同胞のケアや心の拠り所を提供するといった活動を通して、地域に密着していく余地があることを示している。

注

1) 少太山の生涯については圓佛教のホームページを参照。

<http://guide.won.or.kr/pages/tenet>

2) 大阪教堂への調査の際、入手した大阪教堂の沿革を参照に作成した。

3) 李和珍「圓佛教の海外布教の日米比較」『神道宗教』第249号（2018年1月）。

4) 『民団新聞』2004年8月15日付、『統一新聞』2005年11月16日付き、『民団新聞』2007年10月24日付に紹介の記事がある。

5) 『圓佛教新聞』報道 <http://www.wonnews.co.kr/news/articleView.html?idxno=116563>。